



第24回日本外来小児科学会報告



2014. 8/29-8/31 大阪



① 母子感染症：

トキソプラズマやサイトメガロウイルスなど。母が生肉、洗わない野菜、猫から感染すると、こどもにも感染することがある。

② 虫刺され：

ハチの死亡例は年間20人前後、ほとんどがアナフィラキシー。治療はエピペン(アドレナリン)と抗ヒスタミン剤。ムカデにさされたら、冷やすのが無難。セアカゴケグモは思わぬ場所にいる。後からだんだん痛くなる。噛まれていないところも痛くなることもある。ブユに刺されると、少し出血し、すごく腫れる。トコジラミ(ナンキンムシ)はカメムシの仲間で、シラミの仲間ではない。

<バルサンまちぶせスプレー>がよく効く。



③ まんせいとうつう しんしんはんのう慢性疼痛と心身反応：

画像の改善が痛みの改善につながるとは限らない。

ずっと安静にしていると、痛みのことばかり考え、痛みが増すことがある。子宮頸がんワクチンによる慢性疼痛も心身反応のことが多い。



④ ロタウイルスによる重症の胃腸炎：

ワクチン導入後、9割以上減少した。

⑤ かぜ：

<鼻副鼻腔炎>と定義する専門家がいる。代表的な上顎洞炎(鼻のすぐ横にある空洞に痰が溜まる)は大人では痛い、子供では痛くない。咳止めは使いすぎると咳を長引かせる。(痰を出しにくくなるので)



⑥ RSウイルス：

保育園児・家族に喫煙者がいると感染しやすくなる。予防薬のシナジスは早期に生まれた低出生体重児が対象だったが、予定日近くに生まれた児で、より効果が高いことがわかってきた。ダウン症のお子さん、免疫不全児、心疾患の一部のお子さんに適応が拡大された。



⑦ **ヒブの髄膜炎：**



0歳の発症が全体の70%、特に5か月から増える。ワクチン開始後98%と著明に減少した。

⑧ **肺炎球菌髄膜炎：**



0-2歳児に多い。これもワクチン導入後57%減少したが、7価ワクチンに含まれない株が多くなり（特に19A）、13価ワクチンが2013.11月から導入された。

※⑦⑧は感染する前にしっかり抗体をつけておくことが一番の予防です。生後2か月からの接種を強くお勧めします。



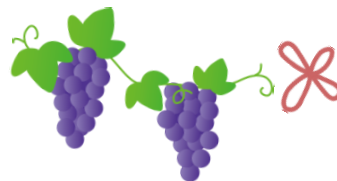
⑨ **B型肝炎ワクチン：**

乳児期にワクチンを接種すると、強い免疫ができることがわかってきた。

母子感染（75%）以外にも、血液・汗・涙などの体液からも感染する。父子感染も15%ある。

⑩ **食物アレルギーの方の食事：**

必要最小限の原因除去をする。念のため、心配だからといって除去を増やさない。（栄養不足の恐れがでてくる）食べられる範囲のものはしっかり食べる。心配だったら、抗ヒスタミン剤、（必要なら）エピペン[®]を常備しておく^①と安心。保育園・学校の昼食は1食だけのことなので、あやしい食材は完全除去とした方が間違いは少なくなる。



⑪ **おねしょ（生理的現象）と夜尿症：**

定義としては、5歳すぎて週2回以上の夜間尿失禁が3か月以上続く場合を夜尿症という。外来治療としては、i尿検査。ii生活指導。おこさず、あせらず、おこらずの3原則。

iii薬物療法。ミニリンメルトなど。夜尿アラームが効くこともある。お泊り行事が気がかりと思いますが、良い工夫で楽しめますので、当院にご相談下さい。

⑫ リッツカールトンから学ぶホスピタリティーの真髓の話を聞いてきました。患者様に満足していただける医療をお届けできるよう、スタッフ一同頑張ります。

